

1. 科目名 (単位数)	国際福祉研究 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2337
2. 授業担当教員	河内 孝			SCMP2337 SBMP2337
4. 授業形態	講義、課題発表、グループ・ディスカッション等		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>各国の社会福祉制度を比較する中で、今後の日本の福祉の在り方を研究する講座です。社会福祉制度には、その国固有の宗教、歴史、哲学などが色濃く反映しています。公的な介入を極力避けて利用者の選択、on your risk に任せるアメリカ。国家と市民との契約に基づき税投入により高福祉を追求するスウェーデンなど北欧諸国、少子化対策などと高齢者福祉を一体のものとして社会のセイフティネットづくりに取り組むフランス。質量とも充実したボランティア組織が福祉水準を維持する英国、本格的高齢化の到来で政策確立を急ぐ中国など。これらの事例を学びながら超高齢化の進む日本型福祉の在り方をさぐります。</p> <p>平成 30 年 4 月施行された介護保険法改正では、在宅介護を中心とした地域包括ケアの考えが一層進められています。これに対し各国の状況はどうか。それぞれの文化的、社会的事情が反映した対応となっています。こういう点も学んでほしいと思います。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 各国の先進的な社会福祉制度について事例を通して理解を深める。</p> <p>2. 1 を通して日本型社会福祉のあり方について自分の意見を持つことができる。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート 課題	適時、レポート提出、意見発表など積極的な授業への求め、評価対象とする。 グループ・ディスカッションについては学生の理解度の進捗、希望等を見極めて実施する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 河内 孝著『自衛する老後』新潮新書デジタル版。その他、必要な資料をプリントして渡します。			
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 各国の先進的な社会福祉制度について事例を通して理解を深める。</p> <p>2. 1 を通して日本型社会福祉のあり方について自分の意見を持つことができる。</p> <p>○評定の方法</p> <p>日常の授業態度 (質問、授業への積極的参加度、課題発表) 50%</p> <p>提出レポート、随時提出してもらった授業の理解度を確保するための短記式レポート 50%</p>			
12. 受講生への メッセージ	高齢化率が 3 割に近づいた日本で、どのような社会保障体制を整えるかは国民的な課題です。各国の様々な福祉への取り組みを研究し、日本型社会福祉の在り方について明確なビジョンを把握し、専門介護職、ソーシャルワーカーにふさわしい知識を得てほしいと思います。			
13. オフィスアワー	授業日の授業前後ならいつでも			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	世界の中の日本の福祉、その現状と課題	事前学習	他国を知るためにはまず自国を知ることが大事。日本の介護保険制度につき、その現状について、概略を予習してくる。	
		事後学習	「自営する老後」第 1—2 章で述べる日本の社会福祉制度の概要について理解を深めてくる。	
第 2 回	アメリカの福祉制度①その政策展開	事前学習	アメリカの社会保障政策の基礎となっている On your risk の概念について配布プリントに基づき予習する。	
		事後学習	授業で説明した medicare , medicaid について内容を授業中に示した参考書により復習する。	
第 3 回	日米福祉比較 (文化の違いを中心に)	事前学習	配布する「介護保険はどこへ行く」を読み、介護保険制度が直面する問題点を理解した上で、アメリカとの制度比較をする。	
		事後学習	何故、アメリカにおいては医療、介護保険制度の導入に抵抗が強いのか、配布プリントで復習する。	
第 4 回	グループ・ディスカッション、もしくはレポート発表 (日米の社会保障制度の比較、違いが生まれた文化的、歴史的背景につき 4~5 グループに分けて発表、討論を行う)	事前学習	グループ・ディスカッションに備え日米社会保障制度の違い、違いを生んだ文化的土壌につき自分の意見を 5 分程度で発表できる準備をする。	
		事後学習	グループ討論の結果を踏まえ、日米比較を短レポートにまとめる (随時授業中の発表してもらう)。	
第 5 回	日本の福祉問題点、介護保険制度が直面している問題	事前学習	配布する資料「地域介護の旗手たち」、「外国人労働力問題」を読んで、問題の概略を把握して来ること。	
		事後学習	紹介する介護施設現場ルポについて、感想、自分の意見をまとめ、指名された時に発表できるよう用意すること。	
第 6 回	日本の福祉 外国人労働力の導入は是か非か、介護離職ゼロを目指す政策との整合性を研究する	事前学習	配布資料「外国人労働力、新しい在留資格」を読み、外国人看護師、介護士、実習生の導入についてメリットとデメリットについて考えをまとめてくること。	
		事後学習	介護人材の不足をどのようにして解消したら良いのか考え、次回授業で意見発表できるよう準備する。	

第7回	英国の福祉制度、政権交代と制度改革について	事前学習	第6回授業で配布するプリント、「英国の社会保障」を読み、英国における社会保障制度発達の歴史について学んでくること。
		事後学習	授業で説明した英国のNSC制度について復習すること。
第8回	フランス、ドイツの福祉制度、少子化対策への取り組み	事前学習	第7回授業で配布するプリント、「ドイツ、フランスの社会保障」を読み、両国の制度につき概略、理解して来ること。
		事後学習	フランスの少子化対策、ドイツの介護保険の特徴につきプリントで復習する。
第9回	日本とヨーロッパ福祉文化の近似性と相違点を比較	事前学習	日本と英、独、仏の欧州3カ国との制度的相違について予習、意見発表の準備をすること。
		事後学習	英、仏、独各国の社会保障制度について、各国固有の制度、システムがどのようにして生まれたのか、歴史的背景を、配布資料を中心に復習すること。
第10回	グループ・ディスカッションもしくはレポート発表(第7～8回授業内容を中心に日本と、英、仏、独3カ国の社会保障制度の違い、また違いが生まれた歴史的、文化的背景について)	事前学習	グループ・ディスカッション、レポート作成に備え、授業で学んだ英、仏、独の社会保障制度の特徴、さらに日本との違いについて発表できるように自分の意見を5分程度にまとめてくること。
		事後学習	概要をレポートにまとめること(提出義務はない)。
第11回	北欧の社会福祉(スウェーデン)	事前学習	配布資料「スウェーデンにおける訪問介護ルポ」を読み、そのシステム、どのように行われているかについて理解して来ること。
		事後学習	配布プリント「北欧の社会保障」を読み、北欧諸国の社会保障制度が、どのような哲学により発展してきたか、その歴史を学習すること。
第12回	北欧の社会福祉(スウェーデン、デンマーク)	事前学習	日本と異なる税制、システムを中心に配布プリントで研究すること。
		事後学習	日本と北欧の社会福祉制度の違いを理解した上で、学ぶべき点があるとすれば何か、について考えをまとめ、発表できるよう準備する。
第13回	中国の社会福祉政策について	事前学習	第12回授業で配布する「中国の社会保障」を読み、同国の高齢化のスピードについて学んでくること。
		事後学習	同国の一人っ子政策につき、その功罪について自分の意見をまとめること。
第14回	韓国の社会福祉政策について	事前学習	第13回授業で配布するプリント、「韓国の福祉」を読み、同国の介護保険制度の特徴について概略、学んでくること。
		事後学習	同国の介護保険制度の現状、問題点について日本と比較すること。
第15回	レポート提出、発表と講評を行い添削した上で事後、希望者に返却する。	事前学習	過去14回の講義を通じて学んだ各国と日本の社会保障制度の違いを整理してレポートにまとめること。
		事後学習	各国の社会福祉政策の成功例、失敗例を復習し、日本が学ぶべき項目を整理する。